

2024 年春学期～2026 年春学期授業アンケート調査結果報告

教育開発センター

実施・公表概要

授業評価として本学は「授業アンケート」を実施している。授業への出席、授業時間外での学修時間とその取り組み方、授業の満足度、授業の手法、授業の進行と教材、実験・実習・実技科目に関連する項目を設定している。授業アンケートは、授業最終日の約 2 週間前からすべての授業において担当教員からの指示で、原則として授業時間内の 10 分程度を設けて行われた。

2024 年度～2026 年度春学期までの授業アンケートを比較解析した結果をここに公表する。

調査方法

本アンケートは、本学の LMS である mylog を活用した Web で実施している。学生は、mylog のメニューから授業関連＞授業評価回答より該当科目を選択し、画面に従って回答する。入力の中断や入力ミスなどを考慮してアンケート回答期間中は修正可能である。

集計方法

「回答率」「授業形式」「出席率」「授業時間外の学修時間」「授業時間外学習の取り組み」「シラバスの目標達成度」「教員の意欲」「授業の満足度」は、それぞれの項目の回答数の合計が 100%となるように計算している。上記以外の項目は任意回答かつ複数回答が可能のため、各項目の回答数をアンケートに回答した学生数で割ってその割合を求めた。

結果報告

2024 年 から
2026 年春学期の平均回答率は 40.3%であった。秋学期に回答率が低下する傾向がある。教員に対しては授業アンケートの結果を教員評価に利用していることを周知し、受講生の回

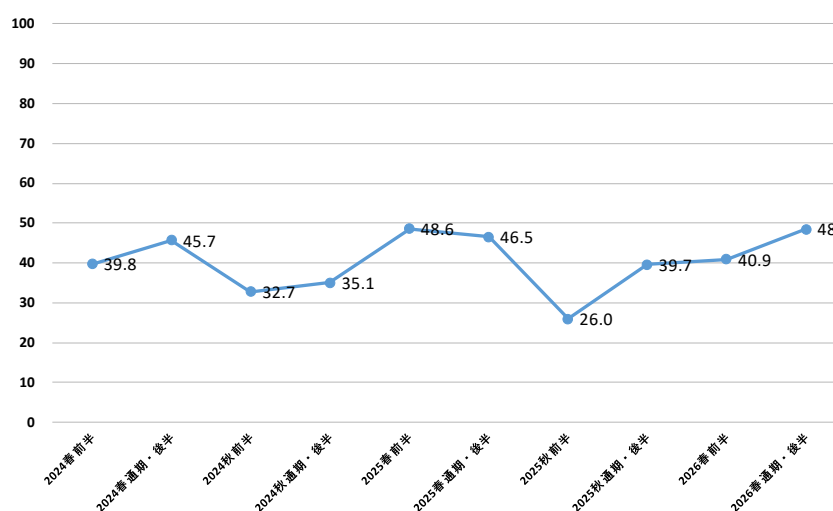


図 1 回答率の変化

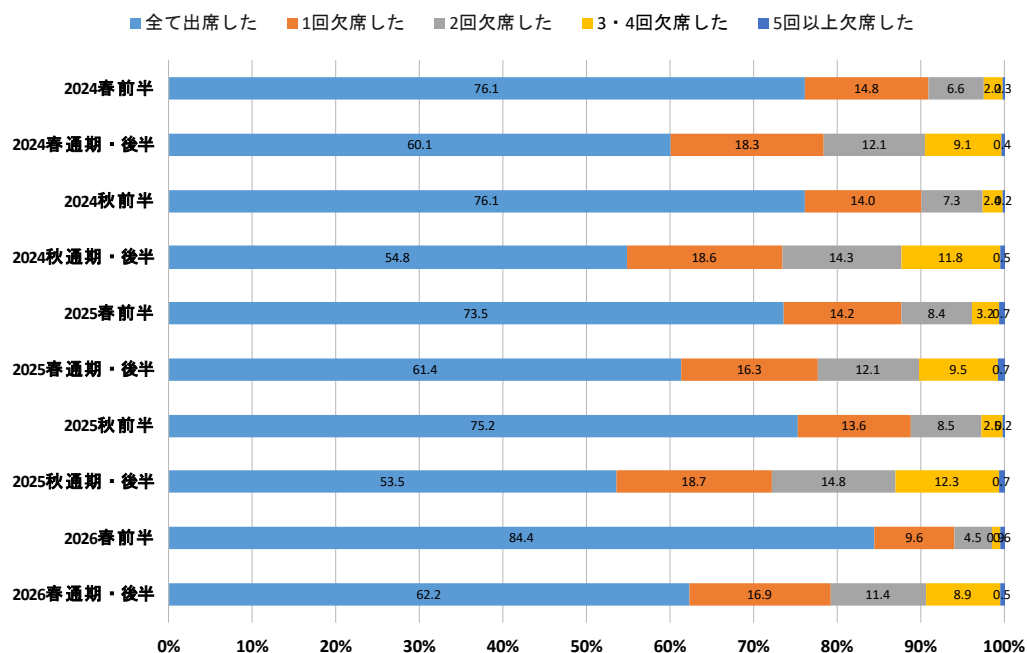


図 2 出席率

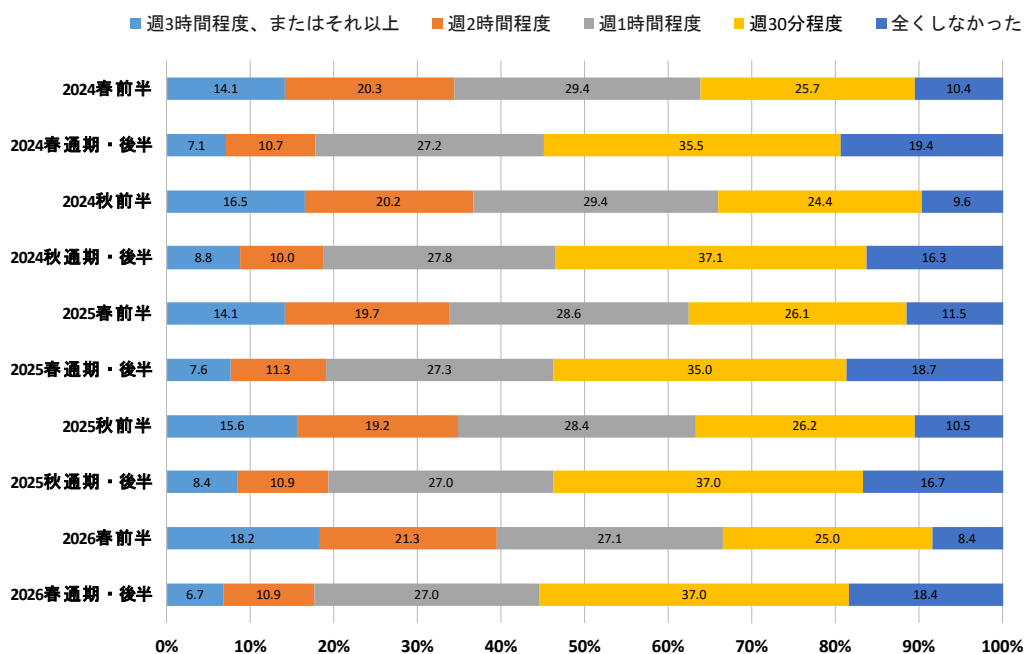


図 3 授業時間外学修時間

答を促すようにお願いしてきたが、引き続きお願いするとともに、授業改善の取り組みとして有効に働いていることを学生へ周知していきたい。秋学期末にアンケートの回答を受講生に依頼するよう教員に促す。

図2に示す「出席率」は、期間の全出席した割合が平均67.7%であった。また、5回以上の欠席が平均0.5%と依然低い状況である。

図3に示す「授業外学修時間」は、期間中、「週30分程度」が最も多く30.9%で、続いて「1時間程度」が27.2%であった。「2時間程度、3時間程度またはそれ以上」が合わせて25.7%であった。「全くしなかった」と回答した学生は、平均14.0%であり、昨年度より0.5%減少した。

また、授業外学修でどのような学修に取り組んでいるのか（図4）については、「宿題などの指示された課題に取り組んでいる」学生割合が一番多く、約57%であった。「シラバスで提示された教科書等で勉強した」学生は、約17%程度、課題以外の自主的に学修に取り組んでいる学生も14%程度いたことが分かる。「積極的に教員に質問した」が平均3.5%（昨年度よりも0.3%増加）、「学習相談室を利用した」が平均0.7%であった（昨年度よりも0.1%増加）。提示された課題や指定された教科書等で学ぶ学生が多いため、学生に授業外での学修習慣を身につけさせるためには教員からの働きかけが重要であると思われる。また、多様な学生を受け入れている現状から、学習支援センターの利用率を向上させる必要があり、学生が訪れやすいように、学生のピアサポート体制を強化する。

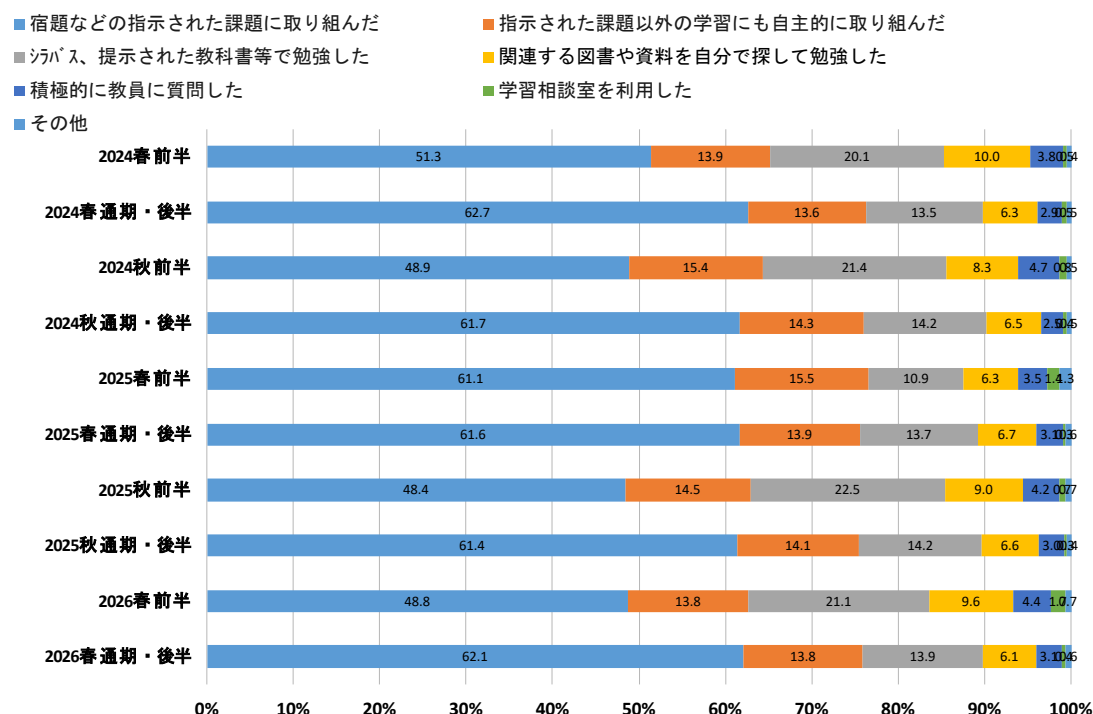


図4 授業時間外学修の取組

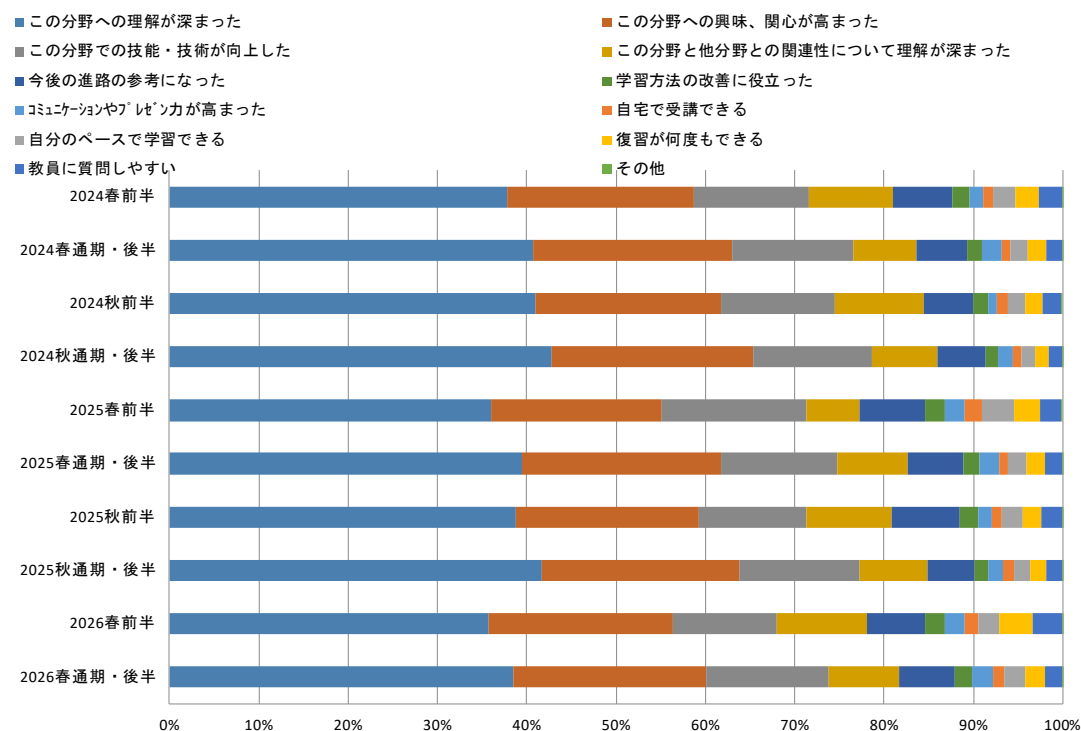


図5 この授業を受けて良かった点

図5に示す「この授業を受けて良かった点」については、回答の多い順に「この分野の理解が深まった」が平均78%、「この分野への興味関心が高まった」平均42%「この分野での技能技術が向上した」平均27%であった（グラフの割合はこの質問の回答者数で割った値で表示している）。学生が主体的に考えたり、行動したりするために必要である「他分野との関連性」への気づきや「今後の進路の参考」になったと回答した学生は、それぞれ17%と12%であり、主体的な学修者を育成するためには、それぞれの授業での意識付けが大切である。また、コミュニケーション力やプレゼン力が高くなったと考える学生は4%と低い。特にコミュニケーション力やプレゼン力の向上は、ほとんどの授業科目でアクティブラーニングが導入し、それら能力の向上を図っているが、実際に能力として身についたと感じる学生が少ないと思われ、学生が能動的に学ぶ機会を与えるような授業が多くなる必要がある。

シラバスに記載されている「授業目標の達成度」（図6）についても、“できた”と“だいたいできた”を合わせると平均88%であり、多くの学生が達成できたと感じている。昨年度と比較すると1%増加した。

図 7 に示す「教員の授業に対する熱意」については、“感じられた”と“少し感じられた”を合わせると約 96%と高く評価されている。しかし、「どちらともいえない」「あまり感じられなかった」「感じられなかった」と約 4%の学生が回答した。

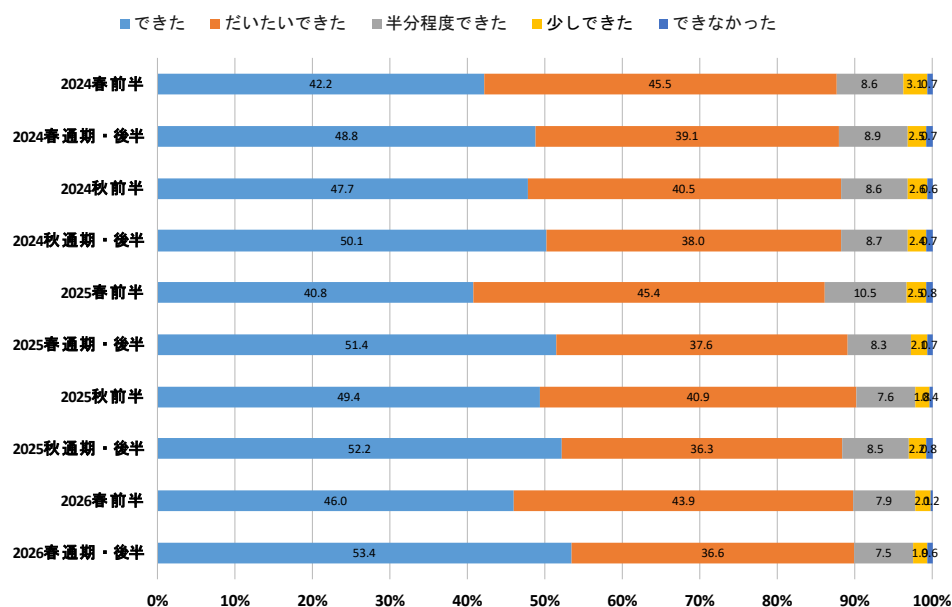


図 6 授業目標の達成度

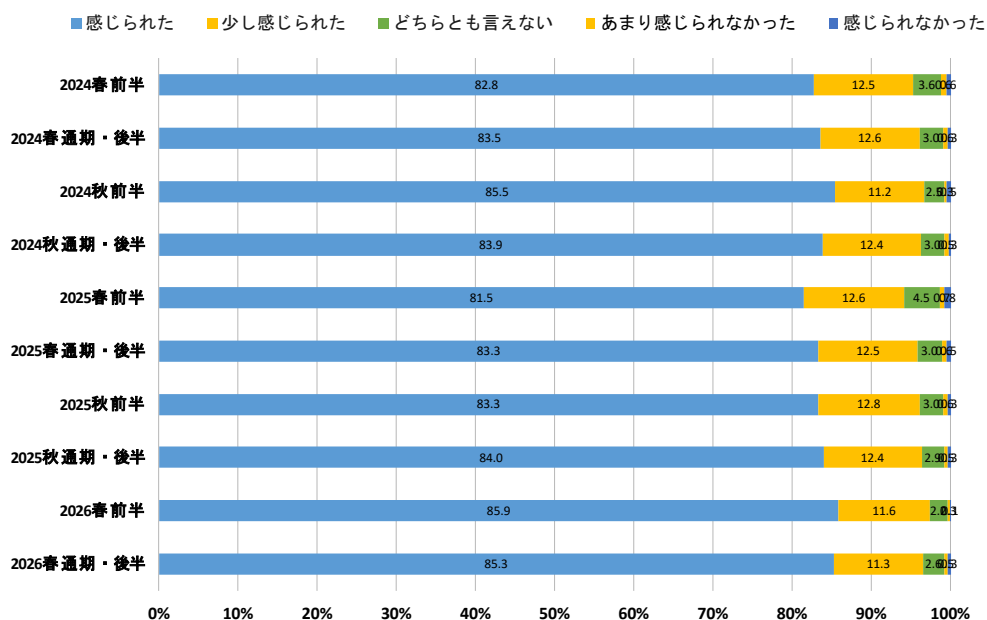


図 7 教員の授業に対する熱意

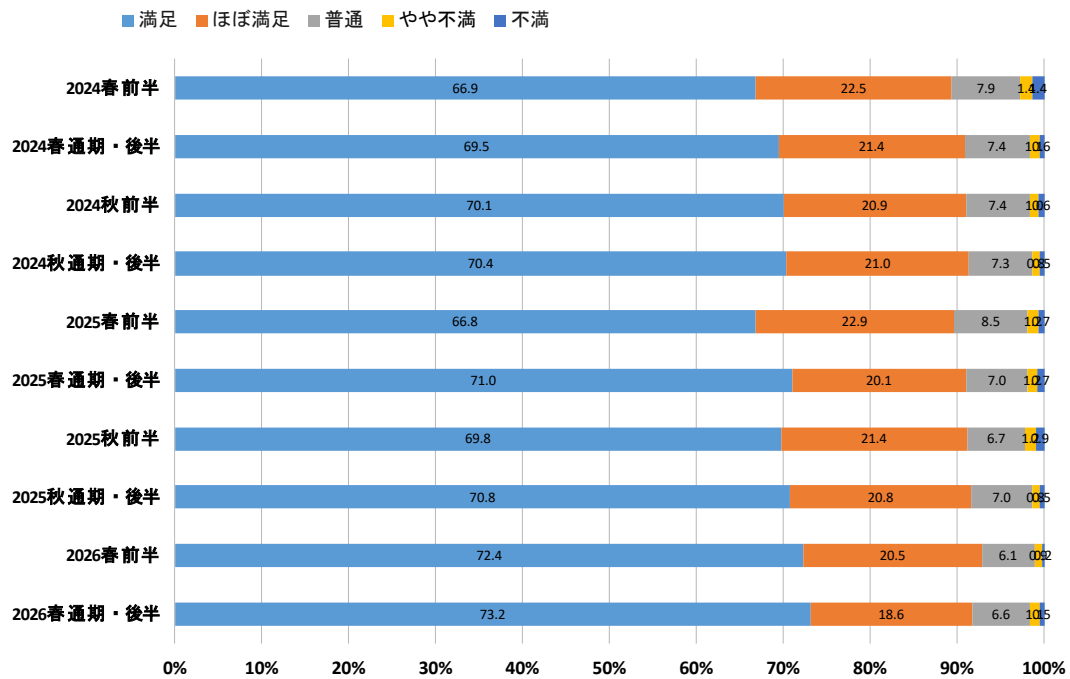


図 8 授業の満足度

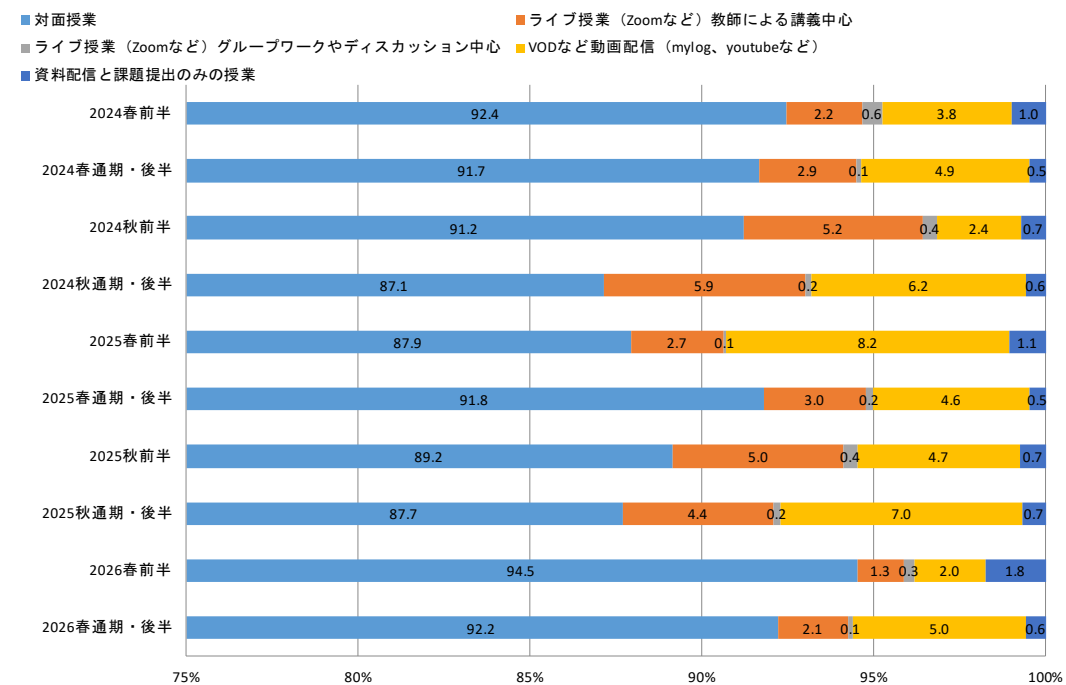


図 9 授業形態

図 8 に示す「授業の満足度」では“満足”と“ほぼ満足”を合わせると約 91%以上と高い水準で推移しており、昨年度よりも 3%増加した。

図 9 に示す「授業形態」に示されるように、2026 年度春学期においては対面授業中心で実施されている。学生が感じるオンライン授業の利点として、教室ではなく遠隔地（例えば自宅など）でも受講できる点や VOD 授業では分からないところを何度も繰り返し視聴できる点、自分のペースで勉強できる点が挙げられた。それらの利点を考慮して、現在においてもライブ授業や VODを活用した授業が、それぞれ約 4%と約 5%実施されている。この値は昨年度とほぼ同じであった。「ライブ授業の中には対面授業とのハイフレックス型授業を実践している授業も存在する。

今後は、それぞれの授業の特性を考慮し、学生により最善の教育を提供するための授業形態として、対面授業とともにハイフレックス型授業、ブレンド型授業などの授業形態を取り入れることを積極的に進めることが重要である。